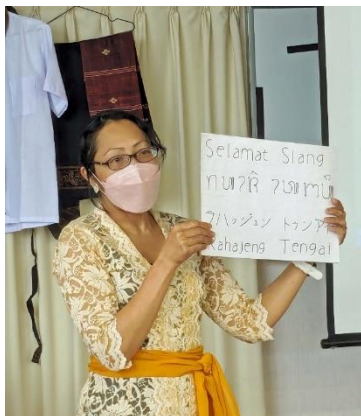


# 神々の宿る島 インドネシア・バリ島

5月30日(木)白鳥公民館にて、国際理解出前講座を開催し、10名が参加しました。トライやるウィークの期間中で、公民館には大白書中学校から3人の中学生が体験活動に来ており、公民館の職員の方と一緒にお手伝い、参加していただきました。講師は、インドネシア・バリ島出身の山口 ニ ワヤン リンブンさんです。



インドネシアは通称で、正式には「インドネシア共和国」です。人口は2億7千万人で世界第4位、東南アジアでは最大です。5つの宗教がありますが、イスラム教徒が多くを占めています。

そんなインドネシアは1万7千以上の島から成り立っています。その一つであるバリ島は、ヒンドゥー教と土着の宗教が混ざり合った「バリ・ヒンドゥー」と呼ばれる宗教が発展し、433万人の人が暮らしているそうです。

バリ島の言葉についても教えていただきました。仕事の際はインドネシア語、家などではバリ語を話すとのことで、文字も2種類ずつ覚えるそうです。フリップを見ながら、講師と一緒にインドネシア語とバリ語で言葉を発音してみました。そして、バリ島の地理、珍しい果物、バリ島独自の暦、毎週行われるお祭り、朝4時から始まる朝市、講師の名前の中の「ニ ワヤン」の意味など、幅広く暮らしにまつわる文化について伺いました。

後半ではトライやるウィーク中の中学生が、インドネシアの民族衣装を試着しました。参加者に女性がいなかったため、女性用は財団職員が試着しました。

バリ島は美しい自然が人気の旅行スポットで、特にバリ島の南部のリゾートに海外から多くの観光客が訪れますが、参加者の中にもバリ島へ行ったことがあるかたがおられました。バリで暮らす人たちが伝統を身近に暮らしている様子を知り、新たな興味を引き出され、いろいろな驚きがありました。

文化が異なるからこそ理解し合う楽しみや喜びがあります。これからも出前講座が日本で暮らす外国ルーツの人たちとお互いに理解を重ねていける一助となるよう願います。

